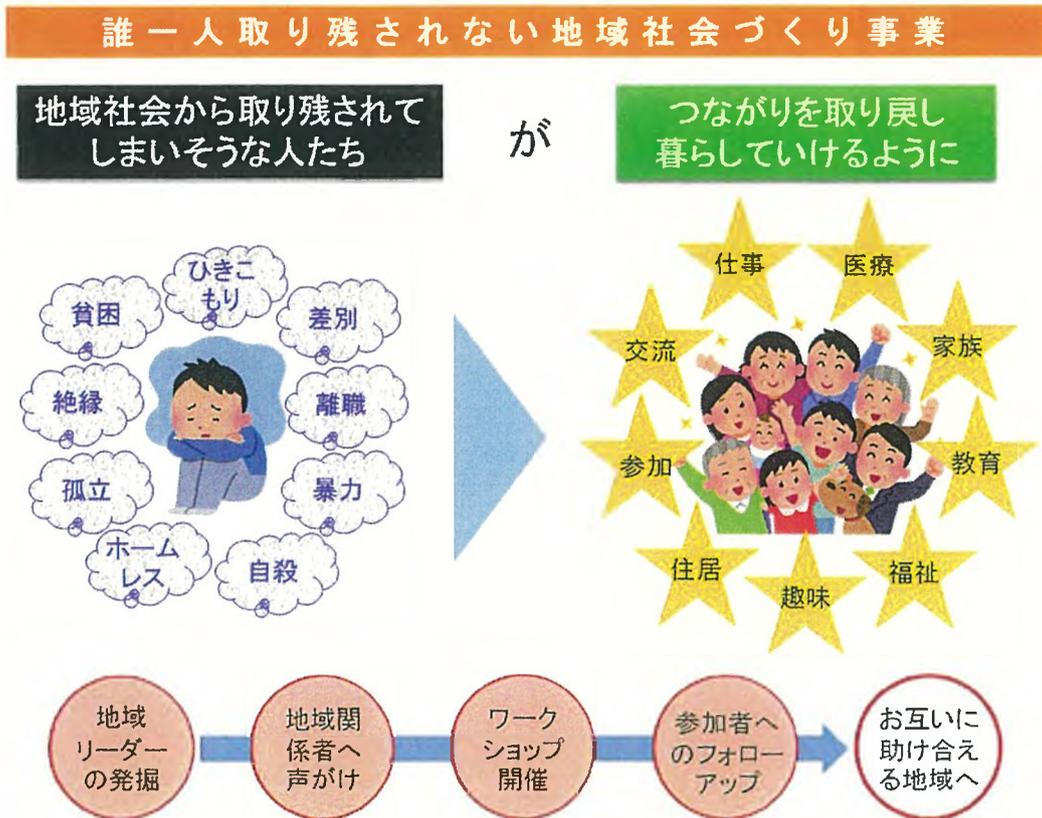


このプログラムは、地域が元気になるため、地域で困っている人のことを考え行動するために、地域住民、支援者、専門家がお互いのできることを持ち寄り、その実践を通して、地域での共生社会を目指していくものです。

● プログラム



*一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト、NPO 法人起業支援ネットによる開発

● こんな想いを持つ人や団体におすすめです！

以下のチェックリストに一つでも当てはまる方

- 地域で孤立している人を何とかしたい
- 地域で困っている人の役に立ちたい
- 地域の中の人とのつながりを取り戻したい
- 地域の様々な機関と実践的な連携を図っていききたい
- 地域住民の思いと力を地域に生かしていきたい

《 実績 》

松本市（新村地区・鎌田地区・奈川地区）
 長野県下諏訪町（社会福祉協議会）
 富山県入善町（工房あおの丘）
 黒部市（宇奈月自立塾）
 福島県白河市（社会福祉法人こころん他）
 愛知県名古屋市（しん）
 愛知県大府市（共和病院）

● こんな効果が期待できます

行政関係者

我が事・丸ごとの推進、
 地方創生の推進、
 まちづくり事業の推進、
 社会資源の発掘を知る機会

地域包括ケアに かかわる方

地域住民の主体的な参画、
 多職種連携の推進、
 インフォーマルなネット
 ワーク構築

民間支援団体

分野や職種を超えた協働、
 キーパーソンとの出会い、
 職員の育成

その他 （企業関係者等）

地域貢献、従業者教育、
 異業種交流

松本市新村地区の実践事例

プログラム導入の目的：松本市新村地区の地域住民が、地域の困り事解決の際に役に立つ手法を身につけることによって、住民の関わりの裾野を広げ、実践に結び付けること。



説明会
プログラムの担い手となる 10 名が参加
趣旨、内容、スケジュールなどを理解する

新しい手法
だと思った

誘導性がなくて
新鮮な WS だ
と思った

プレ研修
地域の役員含め 6 名が参加
ワークショップを事前に体験

ヒアリングを
通してつながりが
できた



事例作成
4 事例を作成、地域のキーパーソンにヒア
リングしながら地域の課題を事例にまとめる



また WS を
やってみたい

ワークショップ (1 回目)
37 名が参加
(地域住民 12 名、公的機関 16 名、民間 9 名)

ワークショップ (2 回目)
地域の新生委員が参加
ケース検討方式で実践的な議論を展開

マイナス面より
本人の幸せを
考えることができた

こんな機会を
求めている

ワークショップ (3 回目)
地域包括支援センターと共同で開催
各区の自治会長が参加し、実情に踏み込む



他地区に波及

NPO 法人工房あおの丘
誰一人取り残さない地域をつくるために、誰かの困りごとを、我が事にする。人をつくる開発ツールです。

一般社団法人しん
誰もが当事者性を持ち、支援者の限界、地域支援の限界を突破する類をみない手法。

推薦の声

NPO 法人宇奈月自立塾
一人一人の困りごとを、皆で繋がり我が事のように考え、地域を…日本を良くしていく最高のツールです。

特定医療法人共和会 共和病院
地域にいる人たちの持つ魅力を感じられます。あなたの地域にはどんな魅力が隠れているでしょうか、みんなで探してみませんか？



地域共生社会開発 実践ガイド

本実践ガイドは、誰も取り残さない地域をどう進めていけばいいかを実践から抽出してまとめたものです。

～人と人とのつながりの再発見を目指して～

- 目次
- 第一章 プロジェクト計画
 - ・プロジェクトの概要
 - ・プロジェクト計画の作成
 - ・CBR マトリックスの解説
 - 第二章 できることもちよりワークショップ
 - ・目的
 - ・事前準備
 - ・当日
 - 第三章 できることもちよりワークショップからの展開

この実践ガイドはこんな方におすすめします

- ・NPO/NGO など中間支援組織のリーダー
- ・支援事業所、相談事業所のリーダー
- ・地域包括支援センターのリーダー
- ・生活困窮者支援事業所のリーダー
- ・若者サポートステーションのリーダー
- ・ひきこもり支援センターなどのリーダー
- ・社会福祉士、ケアマネジャー、精神保健福祉士、地域連携をしている医療従事者、リハビリテーション従事者など

価格：1,000 円（送料別）

購入方法：

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会
までお問い合わせください。

テキストデータ引換券付き。下記をご参照ください。

http://nippon.zaidan.info/jigyo/2017/0000091927/jigyo_info.html

公益社団法人日本障害者リハビリテーション協会のホームページから次の関連資料をご覧ください。



*CBID 日本の事例集

http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/cbr/cbr_jirei_2015/index.html

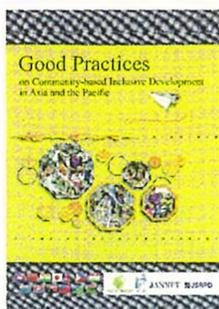
CBID を見る視点（地域の特徴、地域の課題、動員できる地域資源、人材、ネットワークなど）に基づいて国内 10 事例を収集（英語版も作成）



2016 年 *CBID 研修プログラム 開発事業の実施報告書

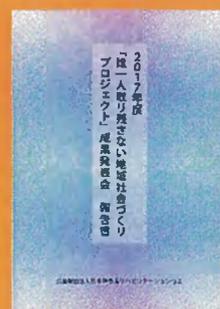
<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/cbr/cbid2016/index.html>

実践ガイド作成に先立ち、松本市、入善町、名古屋市で研修を開催した報告書および事業評価報告書



Good Practices on Community-based Inclusive Development in Asia and the Pacific アジア太平洋 *CBID 事例集

アジア太平洋障害者センター (APCD)、公益社団法人日本障害者リハビリテーション協会他により作成された、アジア太平洋地域の事例集。カンボジア、中国、インド、日本、ネパール、太平洋諸国、フィリピン、タジキスタンでの実践が掲載されている。



2017 年成果発表会報告書

2016 年度実施団体から 2017 年度実施団体につないだ研修（松本市内の地区、宇奈月自立塾、共和病院）の成果発表会

*CBID：Community-based Inclusive Development

- ：地域に根ざしたインクルーシブ開発
- コミュニティや社会が障害のある人をはじめとする、すべての脆弱な人々やグループを含めてインクルーシブなものに変わることの意味しています。

お問い合わせ先

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会

〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-22-1

電話：03-5273-0601 FAX:03-5273-1523

メールアドレス：soumu@dinf.ne.jp